

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2005年1月15日 第46号</p>
		<p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>
		<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a>          E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a></p>
		<p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>

## 板橋で見られるヤドリギ

昨年の夏から秋は、日照りと10個もの台風(上陸)による長雨という異常気象でした。晩秋も高温で紅葉が1週間以上も遅れ、12月も遅くまで櫟などの葉が残っていました。

落葉樹が葉を落としたときに目立つのがヤドリギですね。平成13年の11月に作業体験で訪れた乗鞍高原では、ヤドリギがやたらと多かった記憶があります(27号に体験報告しました)。板橋区内でヤドリギが見られるのは次の場所です。

大門見晴台公園近く(笹目方向に向いて左側)民家の櫟(一本に2株)

赤塚城址公園南西の柵際の櫟(一本に10株ほど群生)

上板橋2丁目の旧川越街道沿い民家の櫟(一本に大きな1塊)

の2株は大きさがかなり違うが、どちらも葉が茂っており元気なようです。庭木で日当たりもよく、櫟の枝をヤドリギの上方で切り詰めているが、ヤドリギを残してくれました。のヤドリギは櫟の太い枝分かれ部に近くにあります、しかも大きな木の群落



切り倒した白樺に寄生したヤドリギ(乗鞍高原高、2001年11月)には実が付いていた。



大門見晴台公園近くのヤドリギ



赤塚城址公園南西の柵際のヤドリギ



上板橋2丁目旧川越街道沿民家ヤドリギ

の中にあるため、日照不足のためか葉の数が少なく、まばらな枝が垂れ下がっており、あまり元気がないようにも見受けられる。あるいは種類が違うのかも知れない。のヤドリギは元気です。

少し前までヤドリギが見られたのだが、残念ながら消えてしまったのは次のところ  
です。

美術館前、道の向かい側台地傾斜部の欒（2本に各1株）

赤塚7丁目、前谷津川の南側民家の欒（1株）

松月院境内の欒（1株）

とのヤドリギは宅地開発で宿主の欒が伐採されました（は10年位前、は一昨年）。のヤドリギは大きな塊でしたが、3年くらい前の台風でもぎ取られたそう  
で（お寺の話）欒の枝に大きなこぶだけが残っています。ヒコバエ（孫生）などが生  
えてこないか注意していきたいと思います。上記の各ヤドリギに実が付いていたかど  
うかは確認しませんでした。株の大きさから実を結ぶ樹齢になっていたように思われ  
ますが、欒の葉が落ちてからの観察では実がありませんでした。すでに食べられてし  
まったのかも知れません。これを機にさらに観察を続けたいと思います。

ヤドリギは宿木とも書き、ヤドリギ科ヤドリギ属の寄生植物で、葉は葉柄がなく3～6センチの長さで、先が丸くて厚い革質の光沢のある楔形（倒披針形）で、単葉が



松月院境内の欒にはヤドリギの跡のこぶが残っている

対生に付く常緑小低木の種子植物です。別名としてホヤとかトビツタなどがあります。ホヤは葉がランプのほや（火屋）の形に似ているから？それとも半透明な黄色い実がランプに灯が点っているように見えるからでしょうか、トビツタは枝から枝へと繁殖するからでしょう。枝は大体2つに分かれ（3つ以上の分枝もある）、若い枝は濃緑色で光沢があり、古い幹は濃褐色になります。前年枝の先端（葉の付け根）や分枝部に花柄のない黄色い小さな花が2～4月頃咲きます。花の基部には杯状の小苞があり萼は厚く4裂し、オシベに花糸がなく葯は萼片に直接付きます。果実は6ミリ位の球形で11～12月に淡黄色に熟れます。

実は甘くて小鳥（特にキレンジャクやヒレンジャク）が好んで食し、粘着質の果肉は消化されずに排泄されるが、糸を引いて鳥の尻にぶら下がって運ばれます。種子（扁平で緑色）が他の木の幹や枝に触れると、付着して発芽し成長することが知られています。空中や地上では発芽しないそうです。

寄生する木（宿主）はよく見たシラカバや欒のほかエノキ、ブナ、ミズナラ、クリ、サクラ、ヤナギ、クワ、アカシデなどの落葉樹（広葉）ですが、板橋地区のヤドリギで見る限り欒と相性がいいようですね。寄生根を宿主の樹皮に食い込ませて水分と養分を貰い、自分で光合成して成長しますので半寄生植物に分類されます。こんもりと丸く茂り、直径が80センチ位まで育つようです。

松の木と同じように常緑で美しいことから、世界中で生命力や癒す力のシンボルと考えられ、東洋では古くから縁起木として飾られ、枝や葉を薬（神経、血管、筋肉や関節炎に、またガンや婦人病）にしてきました。西洋（主に英、仏）では幸福をもたらす木としてクリスマスのときに入り口や室内に飾り、ヤドリギの下の女性には誰でもキスが許されるという風習もあるそうです。もみの木よりも古くから市場で売っていたそうです。また、ヨーロッパの工芸品にモチーフとして、ヤドリギのプロペラ形の双葉図案が数多く使われています。

ヤドリギ（学名 *Viscum album* var.）は世界中に40属1400種もあると言われていますが、国内にある主なものは、いわゆるヤドリギの外に次の種類があります。

- （1）ホザキヤドリギ：花がまとまって（穂状花序）咲く（これだけが落葉型）。
- （2）オウシュウヤドリギ：白実でヤドリギの母種と言われ、欧米では殆どがこの種類。
- （3）オオバヤドリギ：常緑広葉樹（椿やモチノキ、マサキ、木犀、アセビ、クチナシ、ウバメガシなど）の常緑樹と一部の落葉樹（モミジ類）にも宿る（半蔓性で絶滅危惧種）。
- （4）ヒノキバヤドリギ：葉が針葉樹のように細い（椿やヒサカキ、ネズミモチ、イ

ヌツゲ、アセビ、クチナシなどに、たまに落葉樹にも寄生)。

(5) マツグミ：赤松や樅や榎などの針葉樹に寄生する。

ヤドリギは落葉樹にだけ寄生し、常緑だと思っていたので認識をあらたにしました。英名(Mistletoe)には鳥モチの意味もあり、実際に果肉で鳥モチを作っていたそうです。ちなみにヤドリギの花ことばはKiss meで、西欧の風習から考えられたようです。

ヤドリギは他の植物の側皮層を貫き木質部まで根を伸ばすので、いわば接木状態で成長することになります。したがって寄生された部分より先の宿主は養分が不足し、極端な場合には枯れ込みます。また、種が付着しやすい老木の幹や太い枝に多く付くようです。

区内では大きな樺の木がすっかり減ってしまい、ヤドリギが繁殖出来る条件も減ってしまいましたが、これからも種が運ばれて来て生えることがあるかもしれません。あるいは、区内にある株からの繁殖もあるかもしれません。区内では樺だけに付着しているようですが、他の木にもあるかも知れません。区内全て隈なく調べたわけではありませんので、見落としているヤドリギがあるかも知れません、何処かで見つけれられた方はお知らせください。(高い木位置で枝の分かれ目にある鳥などの巣が紛らわしいのでご注意ください)(猪鼻 昭二)

## 八つ当たり？された赤塚トンボ池がトホホ

新年号なので報告したくなかったけれど、12月にきれいにした赤塚トンボ池があれいています。「虫の居所の悪かった方」が八つ当たりしたようです。看板をはがし、池に放り投げ、柵もだらしく曲がっています。自然材でできた池の施設も年数を経てもろくなってきており、意図的な破壊に対して抵抗力がありません。

トホホのその2は、湧水が途中で消えて池に入っていないこと。

2004年は、いやになるほど湧水が続き、秋からは台風が次々と上陸してどしゃぶりになる極端な降雨状況でした。その土砂降り雨が湧水となって池にさらさらと流れ込むことを期待したのですが、逆に大雨により泥が流出したようで、傾斜のゆるい水路に泥がたまって水が流れない。12月に徹底的に水路の泥さらえをし、かろうじて池に水が到達しましたが、今はまた空堀状態です。原因は、流れの緩い水路の勾配をとることがむずかしいのと、水路の漏水もひどくなってきているためと思われます。

つまり7月途中から湧水はほとんど途絶えたままということです。

池は夏ほど干上がっておらず、涼しくなってからアオコモ消え、水も透明です(p7に続く)。

## 白子の湧水地保全の署名活動について

白子川を挟んで隣の和光市白子には、湧水地が点々とあり、ほとんどが民有地です。そのひとつ旧川越街道に面した湧水地を保全してほしいという陳情を和光市議会12月定例会に出すことになり(会報44号)、いたばし水と緑の会も賛同団体として署名に協力しました。隣町三園一丁目町会長である鈴木会長も先頭に立って署名集めに尽力されました。

人は皆、身近な自然が大切と言います。それなのに身近な自然は次々となくなり、「何とかならなかったのか」と無力感に襲われます。

その都会の自然保全に、和光市民が当事者として行動を起こしたのが今回の陳情でした。集まった署名数は3006名に達しました(和光市民は約6割)。しかし、直前になって地権者の一人が陳情に強く反対されたため、陳情は取り下げられました。

発起人のひとり加藤研二さんは、「和光市内外の多くの市民が署名し、また多くの市民団体が賛同したことは白子の湧水に対する関心の高さを裏付けるもので、陳情は取り下げたけれど議会や行政関係者に強烈に問題提起できた」と言います。湧水保全は市民参加による和光市環境基本計画や実行計画にもうたわれていますが、言葉だけの湧水保全でなく、具体的な施策として実を結ばなければ意味がありません。

水と緑の会が、白子の湧水を見に行ったのは2000年4月。ひとつの湧水地がつぶされ、高層マンションを建設している最中でした。今回の署名の対象になった旧川越街道沿いの湧水地は、湧水は残っていますが、私たちが見た洗い場跡の流れはなくなり、駐車場になっています。また2000年に見学した本田テクニカルサービス前の湧水は、今は建物が建って半分以上見えません。おばあさんが畑をしているなつかしい谷間風景もどうなるか全くわかりません。状況は切迫していますが、手だてはまだ何も用意されていません。

白子の湧水は和光市だけのもではなく、私たちの宝なのです。和光市民・市民団体は、署名活動で得られた人のつながりを大切にし、広い地域の市民と連携して、湧水保全の次のステップに取りくんでほしいと願っています。(坂本 郁子)



ホンダ前の湧水のある駐車場は住宅に変わり、今は湧水の一部しか見えない。(写真は以前の様子)

## 季節の観察メモ

### ネズミモチかな トウネズミモチかな

赤い実の少なくなったこの頃、小鳥たちはネズミモチなどの黒い実にも群がっています。その騒がしさや黒い糞に閉口している方もおられるようです。

ネズミモチは、関東以西の暖地の山に生える5mほどの常緑小高木です。モクセイ科で、1cmほどの黒い楕円形の果実は、ネズミの糞そっくりです。また、葉がモチノキに似ることからネズミモチの名がつけました。この名は古く「枕の草子」にも記されていますが、他にも実の形からネズミギ・ネズミノフン・・・、葉の形や色からタマツバキ・テラツバキ・・・、葉を揉むと甘い香がすることからサトウギ・・・などなど、思いの外多くの名で呼ばれていました。

常緑でありあまり大きな木にならず、刈込みに強いため、古くから庭や垣根に植えられてきました。鹿児島や福岡地方では、この木のことをデコッサーノキ・デッグサンシバ・オコージンシバなどと呼んで、大黒様や荒神様の供花とするそうです。実がネズミの糞によく似ていればこそマイナス・イメージでなく、大黒様のお使いのネズミに招福の願いを込めて、庭や垣根に植えたものと思われる。

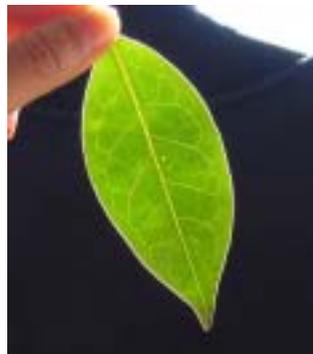


左：ネズミモチ、右：トウネズミモチ。トウネズミモチは、葉が大きく先が鋭くとがり、葉の基部の方が広く、果実が丸い。右の実が少ないのは野鳥に食べられたため。

現在もこうした所によく植えられています。都会ではネズミモチによく似たトウネズミモチの方が多いようです。この2種はとてもよく似ており、時に混同されていることがあります。

トウネズミモチは中国原産で、明治初期に渡来したとのこと。成長が速く、塩害や大気汚染にも強く、葉も美しいので公園や工場に植えられました。

トウネズミモチは、ネズミモチに比べて全体に大柄で高さ1.5mほどになります。葉も一回り大きく、先が細く尖り、葉の基部の方が一番広がっています。花序も倍近く大きく、多くの花が着きます。また、果実も丸みを帯び、種子の表面に大きな皺があるなど、相違点は多々ありますが、一番はっきりした違いは、葉を陽にかざして見ると葉脈が明るく透けて見えることです。



**葉脈が透けるトウネズミモチ**

中国ではトウネズミモチを女貞と呼び実を強壯薬に、葉を腫物の薬に、枝についたイボタロウムシの蛹は家具を磨くワックスなどに使ったようです。これらを探るために栽培もしていたとのこと。姿・形のとてもよく似た日本のネズミモチにも、こうした利用の仕方はあったのでしょうか。



**透けないネズミモチ**

こんなことを考えながら、冬の陽に葉をかざしながらネズミモチを探すのも楽しいですね。(篠原智男)

(p4から続く)10月のフィールドワーク時、講師の田邊さんに「浄蓮寺下の池に比べて足りないものがある」と言われ、ずっと考えてきました。赤塚トンボ池は、さまざまな制約の中で、やっと実現した自然を取り戻す場所です。以前池があった場所なのに、分厚い防水シートを張らなければならない自然の池には、梅まつりの舞台用の奇妙な土台が残っている。粗朶を入れ植物を植えた箱舟には、やっぱりヤゴがいて、トンボ池の環境には「植生の復活とザリガニ対策が決め手」ということまでは証明されたが、池の水位が下がって、植物のない箱舟はやはり人に違和感を与える。いたずらは絶えないし、ザリガニもいるし、大きなコイもいる。たった一人の行為でも状況が変わってしまう自然、問題は多いことは確かですが、自然を取り戻す場所として、もう一度その価値を見直す時期に来ているのではないのでしょうか。

# 活動のお知らせ

**運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。**

2月運営委員会： 2月4日(金) 18:30～20:30

3月運営委員会： 3月4日(金) 18:30～20:30

**いずれもエコポリスセンターです。**

**会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方は応援よろしく**

日時：3月15日(火) 18:00～ 場所：エコポリスセンター

**活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)**

**原則として毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に午前中は自然観察やゴミ拾い、必要な修理等を行っています。**

**原則として雨天も実施します。**

## 1月の活動

水路の水が流れるよう水路底の泥さらい、池の清掃、壊された柵や看板の修理などかなりやっかいな作業になりそうです。時間がある方は一度見て対応方法等も提案してください。

日時:1月29日(土)10:00～12:00

集合場所:美術館前トンボ池

持ち物:軍手、タオル

雨天の場合:現地調査を中心にし、場合によっては作業を翌日30日(日)に延期します。

## 新年会をやります

作業で初汗をかいて、午後は新年会といきましょう。作業に出られない方は直接会場へ。

日時:1月29日(土)12:30～15:00

場所:赤塚5丁目集会所(赤塚植物園と大仏の間)

会費:1300円位

## 2月の活動

城址の観察とゴミ拾い。場合によっては補修作業になります。

日時:2月26日(土)10:00～12:00

集合場所:美術館前トンボ池

持ち物:軍手、タオル、ゴミ袋

## 梅まつり(詳細は未定)

池のそばで会のPRをします。昨年同様工作や展示を考えています。新企画もご検討下さい。今年もカエルがきてくれるかどうか。

日時:3月5日(土)10:00～15:00

3月6日(日)10:00～15:00

場所:美術館前トンボ池